

# 接続助詞による言いさし表現の分類について

金 瑋婷

## A Study on the Classification of Unfinished Sentences Ending with Conjunctive Particles

JIN Weiting

### 要旨

現代日本語口語中，我们经常看到以接续助词结尾的不完整的句子。在这样的接续助词用法中，有的虽然只是省略，但也有很多已经脱离了其本来的用法，而产生了新的表达功能。本文中，作者旨在全面考察接续助词句末用法的基础上，进一步分析接续助词功能是如何发生转换的，并尝试运用动态性分析揭示出用于句末的接续助词功能转换的连续性。

作者首先详细分析了相关先行研究，指出由于缺乏动态性分析视角和体系化把握方法，导致研究无法阐明接续助词的功能转化和给予不完整句子用法的准确定位。本文中，作者为解决以上问题，对各接续助词功能的动态运动阶段通过举例进行了分析，进而将接续助词结尾句子进行了新的三分类：第一类是以“カラ”、“ケド”、“テ”、“シ”结尾的句子，其功能变化过程为【接续助词本来的用法→兼具接续助词和终助词的用法→接近终助词的用法】；第二类是以“タラ・バ”、“ト”结尾的句子，其功能变化过程为【接续助词本来的用法→兼具接续助词和终助词的用法】；第三类是以“ノデ”、“ノニ”结尾的句子，其功能变化过程为【接续助词本来的用法→接近终助词的用法】。文章中，在对日语接续助词整体把握的基础上，简单描绘出了日语接续助词的功能转化路径。

## 1. はじめに

現代日本語の話し言葉では、接続助詞で終わる発話がしばしば見られる。例えば、

- 1) 青木「最初から合うカップルなんて、そういないと思うけど。これから一杯二人で練習すれば」  
まりか「そうじゃないんです。青木さん、普通にお話ししてる時は、そうでもないんですけど……」

(『Shall We ダンス』周防正行)

- 2) サイ「兄貴、どうもです」  
中谷「おう、サイか。つきあえよ」  
サイ「今夜はちょっと……」  
中谷「(ウミを見て) なんじゃ、そのドスベタは」  
ウミ「あたし、一人で帰れるから」

(『岸和田少年愚連隊』鄭義信・我妻正義)

これらの例文では、下線がついた接続助詞が発話者のターンの最後に現れてくる。しかし、発話者はそこで発話を終わらせており、代わりに聞き手がそれを受けて発話を行う。接続助詞は本来「語と語、節と節を接続する助詞」(益岡・田窪, 1992: 51)であり(以下このような用法を接続助詞の本来的用法と呼び、その機能を本来的機能と呼ぶ)、以下のよう<sub>に</sub>使用されるべきである。

- 3) 村井「(由貴に) おい、こいつ年いってっけけどまだ坊やだから、あんま色目使うんじゃないねえよ」

(『日本で一番悪い奴ら』池上純哉)

- 4) 内海「あんまり金ないから、こんなんしか無理やけど、ほら瀬戸が集めてる三毛貝シリーズのガチャガチャ。スコ貝とシークレットだけ持ってないないんやろ？」

(『セトウツミ』宮崎大・大森立嗣)

従って、例1)と2)で、接続助詞は文末に使われることによって、本来の用法とは違う言いさし的な表現機能が生じてきたのである。このような接続助詞で終わるものに対し、「言いさし表現」(永田, 2001; 朴, 2008など)「言いさし文」(白川, 1991; 萩原, 2008など)「文末表現」(池田, 1995; 金城, 2002など)といったような呼び方があるが、「言いさし文」と「文末表現」という呼び方は、接続助詞で終わるものをまず文として成り立っていると認めた上での名づけであるので、その前に文とは何かについて論じなければならない。本稿は接続助詞の機能に注目するもので、便宜上接続助詞で終わるものを「接続助詞による言いさし表現」と呼び、接続助詞のこの用法を「言いさし用法」と呼ぶことにする。

接続助詞による言いさし表現は談話研究の重要な一環として従来多く研究されてきた。その中で、個別的に接続助詞を取り上げ、その機能や意味特徴に対する分析を行うものが中心であった。一番多く見られるのは、多用されている接続助詞「カラ」「ケド/ガ」「テ」による言いさし表現に関する研究である(白川, 1991, 1996など; 曹, 1998; 永田, 2001; 横森, 2006, 2011; 朴, 2008; 石黒, 2014など)。それらの研究は主に、言いさし表現の意味・機能などを例文を用いて記述的に分析し、その接続助詞の位置づけや談話機能を検討するものである。それに対し、言いさし表現を有するすべての接続助詞を全般的に考察する研究はあることは

あるものの、それぞれ接続助詞用法の意味や機能と、接続助詞による言いさし表現やその位置づけなどを並べるのにとどまり（国立国語研究所、1970；益岡・田窪、1992；白川、2009など）、本来の接続助詞用法から言いさし表現用法へといかに機能が変化していくのかという機能変化の連続性に言及している研究はまだ少ない且つ不十分である（高橋、1993；于、2001；白川；2009など）。

このように、筆者はまず接続助詞による言いさし表現を取り上げて用法に応じて再分類し、それぞれ本来の用法から言いさし表現になる用法まで、どのように機能が転換しているのかを動的に捉えてその機能変化の連続性を明らかにし、それから、これらの接続助詞による言いさし表現を体系的に考察し、そこに見られる文法化プロセスやメカニズムなどを解明し、言いさし表現の研究を更に完成させることが必要だと考えている。その一環として、本稿では主に、接続助詞の意味・文法的特徴と文脈（言語・非言語）などを基準にして、各接続助詞による言いさし表現の意味用法と機能特徴を分析し、機能転換プロセスと連続性及び体系化を視野に入れて再分類を目指していきたい。

## 2. 先行研究及び問題点

接続助詞による言いさし表現を体系的に分類した研究は、筆者が調べている限り数が非常に少ないが、以下の二つを代表として取り挙げることができるのではないかと思う。

### 2.1 白川（2009：7-11）

白川は、接続助詞による言いさし表現を狭義の「言いさし文」と呼んでいる。白川により、「言いさし文」は二種類に分けることができる。

まず、（例は白川から）

5) A「今日泊まって行けよ」

B「そうしたいんだけどね（溜め息をつく）」

（『男たちによろしく』鎌田敏夫）

のように、文末で言いたいことを濁している文では、言わなかった内容は、聞き手が見当を見つけなければならない。白川はこのような「言いさし文」を「言い残し」と名づけている。

それに対し、従属節だけで言いたいことを言い終わっている「言い終わり」のタイプがある。さらに、このタイプを、後件に相当する内容が文脈上にあるかどうかによって「関係づけ」と「言い尽くし」という二つの種類に分けている。「関係づけ」の「言いさし文」は、後件に相当する内容が文脈上にあるものを指す。例えば、

6) 耕作「美味しいッ。」

ともみ「おいしいネ」

耕作「今日はよく働いたから。」

（後略）

（『夢帰行』市川森一）

というような文である。また、「言い尽くし」の「言いさし文」は、後件に相当する内容が文脈上にないものを指す。例えば、

7) こずえ「ほかにつきあってる女の子いるのかしら？」

響子「さあ…あなただけみたいですけど。」

こずえ「ほんとですか！！」

響子「ええ。」

(『めぞん一刻2』高橋留美子)

のような文は「言い尽くし」の「言いさし文」となる。

しかし、白川の分類は以下の問題点がある。まず、「言いたいことを言い終わっているかどうか」という、「言い残し」と「言い終わり」とに分ける分類基準を把握するのは難しい。そして、「言い残し」のタイプでは、何が言い残されているのかははっきりと説明されていない。そして、この二種類の関係にも触れていない。白川は、最後にこの分類方法に基づき、「言いさし文」の独立文との並行性、また「完全文」の従属節との異なった働きを論じ、「言いさし文」の文法体系上の位置づけを試みた(白川, 2009: 180-186)。しかし、白川は「言いさし文」の「従属節→完全文」の変化に注目し、接続助詞の用法の変化にあまり触れていない。つまり、具体的にどのような過程を経て、接続助詞の機能が転換しているのか、またその過程で、接続助詞がどのような役割を果たしているのかについては明確ではない。この分類方法からこの二種類の関係及び接続助詞の本来的用法との連続性が見えにくいので、この分類に基づいて接続助詞の異なる用法間に見られる機能変化を動的に捉えるのは難しい。

## 2.2 劉 (2016: 179-194)

劉が指摘している言いさし文は白川のより広義のもので、従属節で終わる未完結の文をすべて言いさし文だと考えている(接続助詞による言いさし表現もその一種)。劉は「言いさし文を新たな構文として考え、それを形成する要因によって」、言いさし文を大きく「省略」と「付加」の二種類に分けている。以下の例も挙げている。

8) 部員「亀沢、これからみんなでラーメン食べに行くけど。」

亀沢「今日は辞めとく。」

(日本テレビ系列『弱くても勝てます』第6話)

9) 【圭子が自分の新婚旅行が熱海だったと言った後に、友達が笑いながら】

友達「うちでさえ網走なのに。」

圭子「近いからいいよって。鈍行の普通席。でも、干物おいしかったけどね。」

(フジテレビ系列『ようこそ、わが家へ』第7話)

劉によると、8)は「一緒にどう」などの省略によって言いさし表現が形成されたもので、9)は「けど」の付加によって形成されたものであるという。更に、省略によって形成された言いさし文について、劉は「その省略部分の性質の違いによって、意味論的な省略と語用論的な省略の二種類に分けて考えられる」と指摘し、以下のように述べている(2016: 186)。

意味的な省略は、文脈との関係がそれほど強くなく、主節「B」が習慣的に省略され、同じ言語形式に復元できる場合を指す。意味論的な省略は、定型表現が多い。(中略)語用論的な省略は、主節「B」が決まった同じ言語形式には復元できないが、同じような意味機能を持つ主節に復元できる場合を指す。

つまり、劉は言いさし文を「意味論的な省略による言いさし文」「語用論的な省略による言いさし文」「付加による言いさし文」の三種類に

分けている。劉の分類では、「省略」は白川の「関係づけ」に似ており、「付加」は「言い尽くし」に似ている。しかし、「省略」と「付加」の判断基準について言及していない。それに、「付加」の言いさし文は、一体何が付加されているのかもはっきりなされていない。また、白川の分類と同様に、この分類方法は言いさし文の特徴に着目し、接続助詞の機能の連続性を動的に捉えるのが難しい。

## 2.3 まとめ

接続助詞による言いさし表現の分類に関する先行研究は以下の不足点があると言える。

- ①各種類の定義についての説明が不十分である。それに、分類基準がはっきりなされていない。
- ②二つの分類方法は、言いさし表現の特徴に着目しているのので、それにおける接続助詞の機能の転換に言及していなく、機能の連続性が見えにくい。

## 3. 研究目的及び研究対象

先行研究を踏まえた上で、本稿は以下の問題点を解決するために、接続助詞による言いさし表現を接続助詞の機能転換プロセスを視野に入れて改めて分類する必要があるとする。

接続助詞の意味・文法の特徴と文脈という二つの面から、それぞれの種類の接続助詞による言いさし表現の意味を考察した上で、それぞれの種類の接続助詞がどのように本来の機能と終助詞の機能の間に転換しているのかというプロセスを動的に捉える。接続助詞の本来の機能と言いさし表現における機能の連続性を明らかにする。



本稿のために実例を集めて分析するに当たり、シナリオ作家協会編の年間代表シナリオ集<sup>1</sup>を資料として使うことにする。その理由としては、シナリオで現れる会話は身近な生活を題材としているものが多く、その会話で現れる多くの表現は日常会話に良く見られる表現であるからだと考えられる。それに、話者同士の対人関係や発話背景といったような発話に影響を与える要素を場面や文脈によって観察することができるという利点もある。ただし、本稿では、発話者のターンの最後に現れる接続助詞で終わる言いさし文を例文として収集する。しかも、以下のものを排除することにする。

I. 方言。

II. 相手によって中断された文。例えば、以下のような文である。

10) 諸星「……なに妄想してんだよバカ」

由貴「バカはどっち？いい気になってヤクザと連んでるけど、あんたの先輩がそれでどうなったか忘れたの？あんだってそのうち使い捨てられて——」

諸星「うるせえんだよ！」

(『日本で一番悪い奴ら』 池上純哉)

III. 接続助詞の倒置的用法。例えば、以下のような文である。

11) 瀬戸「犬の散歩してるおっさんに大丈夫かって二回言われたわ、お前が遅いから」

---

<sup>1</sup> 日本シナリオ作家協会は昭和27年から毎年、その前年を代表する優れた邦画のシナリオを収録する「年鑑代表シナリオ集」を編集している。

(『セトウツミ』 宮崎大・大森立嗣)

しかし、接続助詞の倒置的用法は、場面や接続助詞によってそれぞれ違うため、具体的にどのような倒置的用法を研究対象から除外するかについて、その接続助詞による言いさし表現を分析する時に詳しく取り上げて説明することにする。

IV. LINEなどのSNSで現れた文。例えば、以下のような文である。

12) 『榎村さんもいつもの川においでや!!』

と瀬戸が送ったLINEに返事がきた。

『わたし内海くん嫌われてるから……』

瀬戸、速攻返信する。

(『セトウツミ』 宮崎大・大森立嗣)

上述に従って筆者は15冊のシナリオから計725例<sup>2</sup>を集めてきた。ここで、接続助詞ごとに、言いさし表現の出現状況を表1にまとめてみた。

---

<sup>2</sup> 以上述べた4つの場合以外、出現数が10以下である「ても」「なら」などの接続助詞も研究対象から外した。

表1 各接続助詞による言いさし表現の出現状況

接続助詞	出現数 (出現頻度)
カラ	257 (35.4%)
ケド (ケレドモ/ケレド/ガ <sup>3</sup> )	159 (21.9%)
テ	137 (18.9%)
シ	68 (9.4%)
タラ・バ	46 (6.3%)
ト	13 (1.8%)
ノデ	23 (3.2%)
ノニ	22 (3.0%)
合計	725 (100%)

以下、表1に従って出現数の多い順に例文を用いながら、各接続助詞の機能転換プロセスに基づき分析し、接続助詞による言いさし表現の分類を検討していく。

#### 4. 言いさし表現における接続助詞の機能転換プロセス

本稿は言いさし表現における接続助詞の機能転換プロセスを把握するために、各接続助詞の機能転換パターンを分析する必要がある。そこで、モダリティ論を援用することにする。

日本語のモダリティ表現を分類する研究には、寺村(1982:60)の「対事的ムード」と「対人的ムード」との分類、仁田(1997:187)の「事態めあてのモダリティ」と「発話・伝達のモダリティ」との分類、益岡(2000:197)の「命題めあてのモダリティ」と「発話・伝達のモダリティ」との分類などがある。

<sup>3</sup> 加藤彰彦・佐治圭三・森田良行(2007:128)により、「[が]」「けれども」は逆接条件と<ことわり書き条件>を表す接続助詞で、本稿では同じ扱いをすることにした。

本稿では、庵（2001：73）が指摘している「出来事に対する話し手の捉え方」を表す「対事的モダリティ」と「聞き手に対する働きかけ」を表す「対人的モダリティ」との分類を採用する。接続助詞の本来の用法には対事的モダリティが含まれる。それに、対人的モダリティの代表例としては、終助詞が挙げられる。以上に基づき、以下はそれぞれの接続助詞による言いさし表現を考察していく。

#### 4.1 「カラ」による言いさし表現について

「カラ」で終わるものにおいて、「カラ」の用法は本来の用法でありながら、倒置的に使われている場合がある。例えば、

13) 諸星「お前も酒飲めねえのか？」

太郎「はい、体に悪そうなんで」

諸星「だったらクスリもやめろバカ。ま、酒飲まねえのはいいことだ。酔っぱらいなんてみっともねえだけだからな」

（『日本で一番悪い奴ら』池上純哉）

というような例文である。このような例文における「カラ」は本来の用法に属し、本稿の考察対象から外す。<sup>4</sup>

「カラ」による言いさし表現には、まず、まだ本来の用法が残っていて対事的モダリティと対人的モダリティを同時に表すものがある。例えば、「行動を促す」ことを表す例文（14）と「警告」を表す例文（15）がある。

---

<sup>4</sup> 研究対象から除いたため、表1の数値に入っていない。以下同様。

- 14) マサル「会長、まさか手打ちにするんじゃないでしょうね」  
会長「ちょっと相手と連絡とってるから」  
マサル「俺は絶対やだぜ。俺ひとりでも相手とってくるよ」  
会長「ちっと待て」

(『キッズ・リターン』北野武)

- 15) 母「この子病気なんだから。絶対に目をはなさないで、時間になったらちゃんとクスリをあげてちょうだい」  
鉄雄「わーってるよ」  
母「その子にもしものことあったら二度ここに住まわせないから」

(『下衆の愛』内田英治)

これらの例文はそれぞれ、「ちっと待て」「絶対に目をはなさないで、時間になったらちゃんとクスリをあげてちょうだい」というように、相手に対して行動を促したり、警告したりすると同時に、「ちっと相手と連絡とってるから」「その子にもしものことあったら二度ここに住まわせないから」という自分の意志を、相手を促す/警告する保障として取り上げている。そして、主節に相当する内容は文脈から見つけられ、容易に完全文に復元することができる。「カラ」は理由として主観的な主張を持ち出す（「ちっと相手と連絡とってる」「その子にもしものことあったら二度ここに住まわせない」という対事的モダリティを表すと同時に、相手に対して働きかけ（「ちっと待て」「絶対に目をはなさないで、時間になったらちゃんとクスリをあげてちょうだい」）の対人的モダリティも表す。この場合の「カラ」は接続助詞の性質と終助詞の性質を両方持つ。

それに対し、「カラ」の用法は本来の用法から離脱し、対人的モダリティを表すことが主となる場合もある。例えば、「意志/行動の告知」を表す例文(16) (17))と「非難」を表す例文(18)がある。

- 16) 鉄雄「金まわりとか、問題いろいろあるけど、とりあえずやることにした」  
マモル「よろこんでっ」  
鉄雄「で、出演は南で行くから」  
マモル「え？」

(『下衆の愛』 内田英治)

- 17) (前略) 玄関が開き、敏子が入ってくる。  
太郎「……どうも」  
敏子「(醒めた目で) ……荷物引取りに来ただけだから」  
(『日本で一番悪い奴ら』 池上純哉)

- 18) 鉄雄「おい明菜！」  
明菜「なに？マジでびっくりするから」  
(『下衆の愛』 内田英治)

これらの例では、「カラ」によって対人的モダリティが表され、発話のターンが相手に渡される。しかも、主節に相当する内容は文脈から想像しにくい。これらの言いさし表現は完全文に近い。「カラ」は主に対人的モダリティを表し、その用法は終助詞の用法に近い。

つまり、言いさし表現における「カラ」の用法は、「本来の用法→本来の用法と終助詞用法を両方持つ→終助詞化した用法」というプロセス

で転換している。

#### 4.2 「ケド」による言いさし表現について

例19) は「ケド」で終わっているが、実際は「ケド」の倒置的用法である。例20) は、「ケド」による言いさし表現に見えるが、主節に相当する内容は同じ発話者によって完成され、聞き手が話すターンを取っていないため、「ケド」の用法は接続助詞の本来的用法である。このような例文を本稿の考察対象から除く。

- 19) 鉄雄「ありがとうございました……ちょっとびっくりしたけど」  
(『下衆の愛』 内田英治)

- 20) 佳菜子が追いかけて来る。

佳菜子「ね、さっきの話だけど」

和夫「一」

佳菜子「会社やめたってどういう事？先週から城陽印刷ですって？どうして黙ってたのよ」

(『お日柄もよく ご愁傷さま』 布勢博一)

「ケド」による言いさし表現においては、まず、「ケド」は本来的機能を持っていながら対事的モダリティと対人的モダリティを同時に表す場合がある。例えば、「相手に対する伺い」を表す例文(21)と22))がある。

- 21) 藤八郎「一泊したいのだが、いちばんいい部屋を頼む」

支配人「(素早く服装などを観察) スペシャルルームになりま

すと、お一人様五万円となりますが」

(『午後の遺言状』新藤兼人)

22) 猿渡、諸星を引っ張って応接室に連れて行く。

警視庁の国吉博和 (38) と対応している岸谷がいる。

国吉「(諸星を見て) 彼が諸星さん？」

諸星「……そうですが」

(『日本で一番悪い奴ら』池上純哉)

これらの例文は、「スペシャルルームになりますと、お一人様五万円となります」「そうです」といった相手に知られていない情報を告知することを通じて、「いいですか」「どうしましたか」といった相手に対する伺いをしている。この場合、後件に相当する内容は「いいですか」「どうですか」「どうしましたか」「どうすればいいですか」といったような習慣化されたものが多い。「ケド」は新情報を提示する(「スペシャルルームになりますと、お一人様五万円となります」「そうです」という対事的モダリティを表すと同時に、相手に対して問いかけ(「いいですか」「どうしましたか」)の対人的モダリティも表す。「ケド」には、接続助詞の本来的用法と終助詞の用法がある。

また、「カラ」と同じく、「ケド」は主に対人的モダリティを表す場合もある。例えば、「言い切りを避ける」ことを表す例文(23))と「婉曲」を表す例文(24) 25)と26))がある。

23) 老作家「……子供たちは、どこでこれを」

辰夫「四丁目の橋だって言ってますけどね」

老作家「……橋」



(『蜜のあわれ』 港岳彦)

24) (前略)

和夫「非常識だよ」

貴之「気を引こうと思ったのは確かです。でも、今は後悔して  
ます」

和夫「玲子が怒るのは無理もないと、ほくは思うがね」

(『お日柄もよく ご愁傷さま』 布勢博一)

25) サンダ「中場君、僕、帰りたいんやけど」

利一「おう、すんだら、帰れや」

(『岸和田少年愚連隊』 鄭義信・我妻正義)

26) 楓「楓のお父さんね、絵描きになりたかったらしいんだけど結局  
サラリーマンでさ、見てらんないの。だから、君は映画を撮りつ  
づけて」

鉄雄「マジでうっとおしいんですけど」

楓「約束してっ」

鉄雄「分かったよ」

(『下衆の愛』 内田英治)

例23) では、「けど」によって話し手が言い切りを避け、発話のター  
ンを相手に渡す。例24) では、話し手が自分の意見・主張を話し、例  
25) では、話し手が自分の意志を表し、例26) では、話し手が不満を表  
す。この三つの例において、「けど」は婉曲的に表現するという対人的  
モダリティを表す。それに、以上の例は、主節に相当する内容を文脈

上から復元しにくい。従って、「ケド」は主に対人的モダリティを表し、終助詞の機能に近い。

つまり、言いさし表現における「ケド」の用法は、「本来的用法→本来的用法と終助詞用法を両方持つ→終助詞化した用法」というプロセスで転換している。

#### 4.3 「テ」による言いさし表現について

「テ」で終わる文に「帰って」のように聞き手に動作を要請する命令的なものがある。一見したところ、同じく「テ」による言いさし表現のようだが、実際は「～てください」の省略で、あくまでも接続助詞の本来的用法の一種に過ぎないと思うので、考察対象から除く。また、例27)のような「テ」の倒置的用法もある。これらの例文も考察対象から外す。

27) 松本「ちょっと、こっち一回打ってみて、思い切ってね」

(『キッズ・リターン』北野武)

「テ」による言いさし表現においては、まず「テ」は本来的機能を持っていながら対事的モダリティと対人的モダリティを同時に表す場合がある。例えば、「感謝」を表す例文(28))と「陳謝」を表す例文(29))である。

28) 正三「お世話になっています、楓の父です」

鉄雄「あ、ども……」

正三「楓は田舎に帰ることになりました。東京ではお世話になりましたて」

(『下衆の愛』 内田英治)

29) 和夫「済まなかったね、いろいろと」

敏八「いえいえ。何も出来なくて」

(『お日柄もよく ご愁傷さま』 布勢博一)

このような例文は、容易に「ありがとうございます」「すみません」といったような主節に相当する内容を補うことができ、「テ」の用法は本来的用法のように見えるが、「テ」は事実を述べる（「東京ではお世話になりました」「何も出来なくて」）という対事的モダリティを表すと同時に、「感謝」「陳謝」という対人的モダリティも表す。「テ」は接続助詞と終助詞の性質を両方持つ。

そして、「テ」は主に対人的モダリティを表す場合もある。例えば、「新情報の提示」を表す例文 (30) と「非難」を表す例文 (31) である。

30) 雪乃「海に沈んだ文明って信じる？」

浅黄「アトランティスとか、ムー大陸とかのこと？」

雪乃「そうそう、科学も今よりずっと進んでて」

(『ガメラ』 伊藤和典)

31) 内海「瀬戸は樫村さんを手に入れたいんやろ？効率がええ方法教えてんねん」

瀬戸「……あのさ内海、お前そういうところが人間らしくないねん。そのうち痛い目にあうぞ。効率がどうか、受験勉強みたいに言いやがって」

(『セトウツミ』 宮崎大・大森立嗣)

「テ」による言いさし表現に例30)のように、相手が期待している情報を提示したり、自分の行為の正当性を主張しようとしたりする対人的モダリティを表す文がある。また、例31)のような例文では、「テ」の代わりに、終止形で文が終わることになったら、非難のニュアンスがなくなる。というわけで、「テ」は非難の対人的モダリティを表す。それに、これらの例文では、主節に相当する内容は文脈から復元しにくい。つまり、「テ」の機能は終助詞に近い。

つまり、言いさし表現における「テ」の用法は、「本来的用法→本来的用法と終助詞用法を両方持つ→終助詞化した用法」というプロセスで転換している。

#### 4.4 「シ」による言いさし表現について

今回集めてきた例文では、「シ」の倒置的用法が見られなかった。「シ」による言いさし表現においては、まず「シ」は本来的機能を持っているながら対事的モダリティと対人的モダリティを同時に表す場合がある。例えば、「理由の提示」を表す例文(32)と33)がある。

32) 諸星「(背後から抱きしめる)自分の、女になってください……」  
由貴「……」

諸星「……自分、ガンガン現行犯挙げるし、先輩だろうがなんだろうが、絶対負けねえし……」

(『日本で一番悪い奴ら』池上純哉)

33) テロ「2年ぶりの花火だぜ。タツ、これが済んだら、また2年か、もっと長いこと、逢えないかもしれないんだぜ。もう徒党組んで走り回る年でもねえしよ」

(『KAMIKAZE TAXI』 原田真人)

例32) では、「シ」によって、「自分の女になってください」の理由として、「ガンガン現行犯挙げる」「先輩だろうがなんだろうが、絶対負けねえ」と並列的に挙げられている。例33) では、「シ」によって、「もう徒党組んで走り回る年でもねえ」の現実性を証明するために「逢えないかもしれない」という理由を補充されている。「自分の女になってください」と「逢えないかもしれない」は主節に相当する内容である。それと同時に、相手に対して働きかけ（「自分の女になってください」「逢えないかもしれない」）の対人的モダリティも表す。「シ」は接続助詞の本来の用法と終助詞の用法を両方持つ。

それに対し、主に対人的モダリティを表す場合もある。例えば、「不満・反対」を表す例文(34))がある。

34) 鉄雄「最近どうしてた？」

響子「ドラマ決まったの」

鉄雄「どーせあれだろ。通行人Aだ」

響子「違うし」

(『下衆の愛』 内田英治)

このような例文では、「シ」によって、自分の主張が言い出され、相手に対する不満・反対の対人的モダリティが表される。主節に相当する内容は文脈から見られない。「シ」の機能は終助詞の機能に近い。

つまり、言いさし表現における「シ」の用法は、「本来の用法→本来の用法と終助詞用法を両方持つ→終助詞化した用法」というプロセスで転換している。

#### 4.5 「タラ・バ」による言いさし表現について

言いさし表現に使われる「タラ・バ」は対事的モダリティと対人的モダリティを同時に表し、接続助詞の本来の用法と終助詞の用法を持つ。しかし、例35)のような倒置的用法を考察対象から排除する。

35) 和夫「駄目だよ、勝手に一人で出したら」

(『お日柄もよく ご愁傷さま』布勢博一)

「タラ・バ」による言いさし表現には、「願望」を表す例文(36))、「提案」を表す例文(37))と「相手に対する伺い」を表す例文(38))がある。

36) 蓉子「万一、奇蹟が起こらないとも」

藤八郎「は？」

豊子「そうだ、奇蹟だ」

蓉子「これがきっかけで正気にかえったりしたら…」

(『午後の遺言状』新藤兼人)

37) ミカ「忘れ物！絵の具箱忘れちゃった。宿題できない」

アキ「あたしの使えば？」

(『学校の怪談』奥寺佐渡子)

38) 敷島「もし手術がうまくいったとしても……村山さんの場合まだ若いので、三年以内に再発する可能性が、50パーセントを越えます」

一同「……」

森「(敷島に)もし、手術しなかつたら？」

敷島「もって三ヶ月」

(『聖の青春』向井康介)

これらの例文は、容易に「～たら/ばいい」「～たら/ばどうですか」「～たら/ばどうなりますか」というように主節を補うことができる。「タラ・バ」は接続助詞の本来の用法を保ちながら、「願望」(正気にかえったりしたらいい)「提案」(「あたしの使えはどうですか)」「相手に対する伺い」(「手術しなかつたらどうなりますか)といった対人的モダリティも表す。「タラ・バ」は接続助詞の本来の用法と終助詞の用法を持つ。

つまり、言いさし表現における「タラ・バ」の用法は、「本来の用法→本来の用法と終助詞用法を両方持つ」というプロセスで転換している。

#### 4.6 「ト」による言いさし表現について

今回集めてきた例文の中では、「ト」による言いさし表現は全部「～といけない」の省略の形式で現れてきた。省略されることで、「ト」は相手を促す対人的モダリティ(「休まないといけない」→「休んでください)を表す役割も担うようになってきた。「ト」は接続助詞の本来の用法と終助詞の用法を持つ。例えば、以下のような例文である。

39) 浅黄「早くしなくちゃ……でも、ガメラも私も休まないと」

(『ガメラ 大怪獣空中決戦』伊藤和典)

つまり、言いさし表現における「ト」の用法は、「本来の用法→本来の用法と終助詞用法を両方持つ」というプロセスで転換している。

#### 4.7 「ノデ」による言いさし表現について

例40) のように、「ノデ」で終わる文であっても、「ノデ」の用法は実際は原因と理由を表す倒置の用法である。これらの例文を考察対象から排除する。

40) 諸星「お前も酒飲めねえのか？」

太郎「はい、体に悪そうなんで」

(『日本で一番悪い奴ら』池上純哉)

「ノデ」による言いさし表現では、「ノデ」は常に丁寧体と一緒に使われる(41))。

41) 受付「すぐ参りますので…」

(『LOVE LETTER』岩井俊二)

この例文では、「ノデ」をなくしても、内容が完全である。ただし、「ノデ」の使用によって、言い切りが避けられ、相手に対して丁寧の対人的モダリティが表される。従って、「ノデ」は主に対人的モダリティを表し、終助詞の性質に近い。

つまり、言いさし表現における「ノデ」の用法は、「本来的用法→終助詞化した用法」というプロセスで転換している。

#### 4.8 「ノニ」による言いさし表現について

「ノニ」による言いさし表現には、「非難」(42))と「後悔」(43))の対人的モダリティを表す例文がある。



- 42) 用務員「あれほど学校の物を大事にしろって言っといたのに」  
(『学校の怪談』 奥寺佐渡子)

- 43) 美津子「わたしていつもいつも後悔ばっかり」  
森下「オレだって……きみはあんなに子供をほしがっていたのに  
な」  
(『あした』 桂千穂)

これらの例文は、話し手が言いたいことをすべて「ノニ」節で言い終わり、「ノニ」をなくしたら、「非難」と「後悔」の対人的モダリティが出てこないで、「ノニ」は主に対人的モダリティを表す。「ノニ」の機能は終助詞の機能に近い。

つまり、言いさし表現における「ノニ」の用法は、「本来の用法→終助詞化した用法」というプロセスで転換している。

## 5. 接続助詞による言いさし表現の分類

上述に基づき、接続助詞による言いさし表現を接続助詞の機能転換プロセスのパターンから改めて三種類に分けることができる。

第一類：カラ、ケド（ケレドモ/ケレド/ガ）、テ、シによる言いさし表現。この類の言いさし表現は更に二種類に分けることができる。一つは、対事的モダリティと対人的モダリティが両方現れてくる言いさし表現である。その場合の接続助詞の機能にはまだ本来の機能が残っているが、終助詞の機能も帯びている。もう一つは、対人的モダリティが主となる言いさし表現である。その場合の接続助詞の機能は本来の用法から離脱し終助詞に近づいていく。つまり、第一類に用いられる接続助詞の機能は、「本来の機能→本来の機能と終助詞機能を両方持つ→終助詞化

した機能」というプロセスで転換している。

第二類：タラ・バ、トによる言いさし表現。この類に用いられる接続助詞は対事的モダリティと対人的モダリティを両方表す。接続助詞は本来の機能と終助詞の機能を両方持っている。従って、第二類に用いられる接続助詞は、「本来の機能→本来の機能と終助詞機能を両方持つ」というプロセスで転換している。

第三類：ノデ、ノニによる言いさし表現。この類の言いさし表現は主に対人的モダリティを表している。その場合の接続助詞の機能は終助詞に近い。つまり、第三類に用いられる接続助詞は、「本来の機能→終助詞化した機能」というプロセスで転換している。

以上のように、接続助詞の機能転換プロセスのパターンにより、接続助詞による言いさし表現を分類した。分類結果を表2にまとめてみた。

表2 接続助詞による言いさし表現の分類

接続助詞		共通点	相違点
第一類	カラ	言いさし表現における接続助詞の機能は本来の機能から変化が生じ、徐々に終助詞の機能に近づいていく。	本来の機能→本来の機能と終助詞機能を両方持つ→終助詞化した機能
	ケド (ケレドモ/ケレド/ガ)		
	テ		
	シ		
第二類	タラ・バ		本来の機能→本来の機能と終助詞機能を両方持つ
	ト		
第三類	ノデ		本来の機能→終助詞化した機能
	ノニ		

## 6. まとめ及び今後の課題

本稿は、言いさし表現における接続助詞の機能転換プロセスを動的に考察するために、接続助詞の機能転換プロセスのパターンに基づき、改めて接続助詞による言いさし表現を分類してみた。まとめてみると、以下の図1になる。

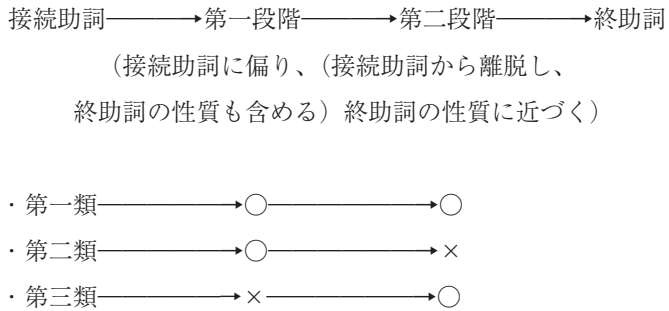


図1

接続助詞による言いさし表現の類別における接続助詞の機能転換プロセス

以上のように、異なる接続助詞の各種用法を手掛かりにして機能転換のパターンを解明し、接続助詞による言いさし表現の相違に応じて再分類した。このような分類に基づき、接続助詞の転換過程を動的に把握することができるようになったのではないかと考える。これから、それぞれの種類において、接続助詞の機能は具体的にどのように転換しているのか、そして、なぜこの三種類の転換パターンがあるのか、さらに、この三種類の転換パターンの共通点と相違点はどこにあるのかなどを、各接続助詞に対する個別研究を仔細に行うことによって体系的に考察していきたい。

参考文献

- Evans, Nicholas. 2007. "Insubordination and its uses", In Nikolaeva, Irina (ed) Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations. Oxford: Oxford University Press. 366-431
- 庵功雄. 2001 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』, スリーエーネットワーク
- 池田裕. 1995. 「文末表現の重要性」『月刊言語』, 24 (13), 128-129
- 石黒圭. 2014. 「講義の談話における「が」「けれども」の用法」, 『一橋大学国際教育センター紀要』, 5, 3-15
- 于日平. 2001. 「关于“から”的功能转变—表示理由的接续助词用法和表示说话人语气的终助词用法—」, 『日语学习与研究』, 2, 5-10
- 荻原稚佳子. 2008. 『言いさし発話の解釈理論「会話目的達成スキーマ」による展開』, 春風社
- 金城克彦. 2002. 「文末表現「けれども」の機能についての再考」, 『欧米文化論集』, 43-63
- 加藤彰彦・佐治圭三・森田良行. 2007. 『日本語概説』, おうふう
- 久野暉. 1978. 『談話の文法』, 大修館書店
- 国立国語研究所. 1970. 『話しことばの文型(1) —対話資料による研究—』, 秀英出版
- 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一. 1997. 『文章・談話のしくみ』, 桜風社
- 白川博之. 1991. 「「カラ」で言いさす文」, 『広島大学教育学部紀要』, 2-39, 249-255
- 白川博之. 1991. 「「テ形」による言いさしの文について」, 『広島大学日本語教育学科紀要』, 1, 39-48
- 白川博之. 1996. 「「ケド」で言い終わる文」, 『広島大学日本語教育学科

紀要』, 6, 9-17

白川博之. 2009. 『「言いさし文」の研究』, くろしお出版

曹英南. 1998. 「「けど」で言い終わる発話の語用論的研究：場面における言いさしの「けど」を中心に（第16回日本言語文化学会発表要旨）」, 『言語文化と日本語教育』, 80-83

高橋太郎. 1993. 「省略によってできた述語形式」, 『日本語学』, 12-9, 明治書院, 18-26

寺村秀夫. 1982. 『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版

中山治. 1985. 「「ほかし」の構造—日本語の表現心理」, 『月刊言語』, 14-12, 大修館書店, 64-69

永田良太. 2001. 「接続助詞ケドによる言いさし表現の談話展開機能」, 『社会言語科学』, 3-2, 17-26

仁田義雄. 1997. 『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して』, くろしお出版

朴仙花. 2008. 「現代日本語における接続助詞で終わる言いさし表現について—「けど」「から」を中心に—」, 『言葉と文化』, 9, 253-270

益岡隆志・田窪行則. 1992. 『基礎日本語文法 改訂版』, くろしお出版

益岡隆志. 2000. 『日本語文法の諸相』, くろしお出版

南不二男. 1993. 『現代日本語文法の輪郭』, 大修館書店

横森大輔. 2006. 「接続助詞の文末用法をもたらす要因—相互行為における参加者の認知の観点から」, 『言語科学論集』, 12, 57-76

横森大輔. 2011. 「相互行為の資源としての複文構文の意味—カラ節とケド節の言いさし現象の考察から—」, 国立国語研究所「複文構文の意味の研究」ワークショップ

劉曉萃. 2016. 「意味論的な省略による言いさし文」, 『北海道大学文学研究科研究論集』 15, 179-194

用例出典

『Shall We ダンス』周防正行（1996）／『あした』桂千穂（1995）／『お日柄もよく ご愁傷さま』布勢博一（1996）／『KAMIKAZE TAXI』原田真人（1995）／『キッズ・リターン』北野武（1996）／『岸和田少年愚連隊』鄭義信・我妻正義（1996）／『聖の青春』向井康介（2016）／『セトウツミ』宮崎大・大森立嗣（2016）／『日本で一番悪い奴ら』池上純哉（2016）／『蜜のあわれ』港岳彦（2016）／『LOVE LETTER』岩井俊二（1995）／『ガメラ 大怪獣空中決戦』伊藤和典（1995）／『学校の怪談』奥寺佐渡子（1995）／『下衆の愛』内田英治（2016）／『午後の遺言状』新藤兼人（1995）